

|         |   |       |      |
|---------|---|-------|------|
| 科目名     | デッサン1 (卒業必修)  |       |      |
| 授業形態    | 演習  | 学年    | 1    |
| 開講時期    | 2023年度 前期   | 単位数   | 2    |
| 担当教員    | 青山 ひろゆき   |       |      |
| 内容および計画 | <p>グラフィックレコーディングに代表されるように多様な場面でデッサン力は有効なツールとなります。そのため、本授業では、デッサン力を高め、自己のイメージを絵画的に伝える基礎能力を育みます。</p> <p>1～3週は、描く対象の魅力を探求することからはじまり、観察の基礎を学び描きます。4～6週は、光と影の観察によって表現できる立体感や色調の変化を丁寧に描画することで生まれる空間表現を学び描きます。7～11週は、触覚的な質感の描き分けやモノの塊を感じる量感、そして前後関係の表現方法を学び描きます。12～15週は、画面全体の構成や大小・粗密の対比を学び自由な表現を志向します。これら多様な角度の課題を設定し、総合的にデッサン力を高めます。</p> <p>※「その他」に記載された準備物を演習初回に持参してください。</p> |       |      |
| 1       | デッサン概論(4限目)/骨格の魅力「手のデッサン」(5限目)  |       |      |
| 2       | モノの魅力「手のデッサン」   |       |      |
| 3       | 明暗とグラデーション「紙のデッサン」  |       |      |
| 4       | 明暗とグラデーション「紙のデッサン」/学生間講評(5限目)   |       |      |
| 5       | パースと空間性「立方体のデッサン」   |       |      |
| 6       | パースと空間性「立方体のデッサン」   |       |      |
| 7       | さまざまな質感「缶と果物のデッサン」  |       |      |
| 8       | さまざまな質感「缶と果物のデッサン」  |       |      |
| 9       | 中間講評(パース・空間・立体感・質感の振り返り)  |       |      |
| 10      | 量感と質感「顔のデッサン」   |       |      |
| 11      | 量感と質感「顔のデッサン」   |       |      |
| 12      | 粗密の構成「写真構成デッサン」(テーマ設定を行い、8枚の写真を用いて制作を行う)  |       |      |
| 13      | 粗密の構成「写真構成デッサン」(テーマ設定を行い、8枚の写真を用いて制作を行う)  |       |      |
| 14      | 粗密の構成「写真構成デッサン」(テーマ設定を行い、8枚の写真を用いて制作を行う)  |       |      |
| 15      | 最終講評  |       |      |
| 教科書     |   |       |      |
|         | タイトル  | 著者名   | 出版社  |
|         |   |       | ISBN |
|         |   |       | 発行年  |
|         |   |       |      |
|         |   |       |      |
|         |   |       |      |
|         |   |       |      |
| 使用しない   |   |       |      |
| 参考書     | 使用しない   |       |      |
| 成績評価    |   |       |      |
|         | 評価方法  | 割合(%) |      |
|         | 授業姿勢・・・授業準備や課題ごとの到達目標を理解し制作を進めることができる。  | 30    |      |
|         | プレゼンテーション・・・学生間講評及び講評において的確に自己の考えを述べるができる。  | 20    |      |
|         | 作品・・・5課題のデッサン   | 50    |      |
|         |   |       |      |
|         |   |       |      |
|         |   |       |      |

|        |   |
|--------|---|
| 学習到達目標 | 1、 対象を観察し、形態・質・空間を捉え描くことができる。<br>2、 制作に粘り強く取り組み、能動的に試行することができる。<br>3、 制作での気づきや試行を言語化できる。  |
| 先修条件   |   |
| 実務経験   | 実務経験あり。高等学校での美術教諭を経て大学での美術全般の指導経験がある。絵画からインスタレーション、そして企画運営などを美術における広い専門知識を有しており、「デッサン1」を通して複眼的な指導が行える。<br>青山 ひろゆき プロフィール, <a href="https://www.tuad.ac.jp/teacher_info/aoyama-hiroyuki/">https://www.tuad.ac.jp/teacher_info/aoyama-hiroyuki/</a> |
| その他    | デッサン用具一式：<br>・スケッチブック（6F サイズ）<br>・鉛筆（4H、2H、HB、2B、4B、）各1本以上<br>・消し具（ねり消し）<br>・カッターナイフ（1本）<br>・ティッシュ（ポケットティッシュ）   |